

7月1日（月）茨城労働局長が工場の安全パトロールを実施！

茨城労働局（局長 澤口 浩司）は、全国安全週間期間中の7月1日に、常陸大宮市所在のグリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 茨城工場（若山健工場長）において、安全パトロールを実施しました。

同社では、①不安全状態・行動の削減②全員参加の安全衛生活動③安全教育の強化を重点に種々の安全衛生活動が進められています。機械による災害防止対策として、機械の危険部分に安全カバーを設けるとともに、安全装置としてインターロック装置を付けて、安全カバーを開けると機械が停止する仕組みにしています。

フォークリフトと労働者との接触防止対策としては、フォークリフトに設けられたセーフティーライト（立ち入り禁止区域を高輝度LEDライトで可視化）により他の労働者に周知しています。

高齢労働者対策及び転倒災害防止対策では、60歳以上の労働者を対象に、年1回の頻度でロコモチェック（ロコモティブシンドローム+チェックの略）を実施しており、自らの身体機能の変化に気づき、転倒等のリスクを把握させ、転倒等の災害の防止に努めています。また、毎日、全労働者に対して作業前にロコモ体操（30秒体操）を行ったり、摩擦抵抗が大きく滑りにくい床材及び階段に穴あき鉄板を採用したりしていました。



写真左：大崎生産技術課長から床の滑りにくさの説明を受ける局長（右側）

写真中：重量物を取扱う労働者が着用するアシストスーツ

写真右：大崎生産技術課長から暑さ指数（WBGT）の把握の方法の説明を受ける局長（右側）

熱中症予防対策は、暑さ指数（WBGT）の把握とその値に応じた熱中症予防対策の実施、通路にウォーターサーバー及び塩タブレットを置き、労働者が水分・塩分を自由に補給できるようになっていました。

腰痛災害防止対策では、重量物を取扱う労働者にアシストスーツ（前屈姿勢や軽い荷物の持ち上げなどをサポートして腰の負担を軽減する効果がある）を着用させています。

局長から同社に対して、「創意工夫をこらした安全衛生活動に取り組まれている事等を確認させていただきました。こういうリスクもあるかもしれないと予想をして、リスクアセスメント等により対策を講じて行くことが大切です。今後も積極的な安全衛生活動を継続していただき、安全で働きやすい職場環境の確保に努めていただきたい。」と呼び掛けました。